



保 4850

文政九年

石川至水西極園八州御領社領寺社領寺



法百姓等、法正御定廻り方、此紙、信札あり

教諭法解書



近來吾石在長服若々等又之論殊地等を特

出納する所、おわえ及根藩具右を、人等似而

姓町人等、同、も長服若々等、同極、下業、又

及、その有、是、と、進、御、仕、正、法、作、付

大正四年三月廿九日寄
内田銀藏氏贈

るべきを相止増長致し當をむすべし
押寄り以て自先致右將陰謀絶た推乃りとの
勿論長服若と常之又致す持あり若くは古捕
忍事之有世室宿有宿く當名別罪非其外
重科之は 估付方之 涉觸有るは 移く支配
領土地致しる為觸知兼知と之 小前末くは 材紋
人等之 精くし 論世活いし 以て 當を 有る 爲る 事と

右解 爲る 事は 仰り 前 百姓 風俗 と あり 若くは 風俗
又 不 接 估 事 あり

御に 惠 心 付 難 事 仕 合 へ ば 良 民 之 御 害 事 あり
以て 之 あり 不 接 事 材 紋 人 等 小 前 一 同 中 合 攝 押
其 事 記 領 主 地 致 又 之 涉 り 歸 止 知 紋 廻 材 紋
若くは 御 心 得 遠 事 持 若くは 之 原 利
解 中 給 仕 事 之 歸 家 業 事 結 核 事 出 之 事 概

丹精後一着をよき言を得止りふ方おくるもの
是又廻村先旨実の上解おはしゝゑ考を桃畑を
む材保令を制方不し申を京考を成るけし
一材を内あまの能細いしゝ又言を考を成るけし
材保人の能細いしゝ又言を考を成るけし
農暇又言を成るけし又言を考を成るけし
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

六六

一 近來世上一流と云ふ中村中岡東筋材別而
考を長し半半系礼儀佛事おあし格別
お成諾入用お成り困窮な程言を成るけし
一 材を考を成るけし又言を考を成るけし
一 於て考を成るけし又言を考を成るけし
考を成るけし又言を考を成るけし
考を成るけし又言を考を成るけし

ありきよと未相止之居候へども付さるも右
位候とありけり端芝居及び其候まき者と岩波
しとておのれは村人等少くも此の山に
一丘木少くも此の山に得遠くも農家を
もといふ田畑作候高物百姓難く
農家も高貴といふも此の山に
不意事有新政高の相初るも端近く相止る候

右の通 津奉行所分江 佐渡江 一輪園高向江
と端近候とありけり人等園八州古廻り内不系
遠とて也、おのれは此の山に候
良民とありけり、此の山に候
おのれは此の山に候、此の山に候
根の山に候、此の山に候、此の山に候
此の山に候、此の山に候、此の山に候

とゆふこい是と死罪のふか捨札とも江建徳の
相角はと歸休する 清仁惠を暫時に相就之
是と多人致死刑と行へ 詮旨失ふと路く事
相心清長服をさへ解意辨細はと風すわらふ
油の相探は押す人余長服をさへ解意辨細はと
右并之れともさへ不らん道は押す能成と地頭を編
自分と廻材之人は若ふに領を地頭く子孫に承
お級ともとのさへ廻材之人は若ふに領を地頭
作事と公事方沙幼室等ゆりて其良は
出方とも沙幼室等ゆりて其良は
行方と村々入用と飲ひ是と不行相あると
今般相定之宿とも相合村あると割る
たると代村とも差押するとも人別と材方と入用
差なりぬるとも押さる宿とも捕る

百姓諸職人町余之身之風俗失之而根下端
正由能事之定業如積水續後積之申論之
相領而村之自之乃人但按書也絶失之村之力
有之一通之教諭計之申論之其之欲之
知自材之乃人乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
之能之何之之議定後之申論之乃乃之乃乃之
次來之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之

但合材之格之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
之考之省之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
不致格之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之

一前之從

清公儀之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
申文之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
是之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之
乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之乃乃之

村人其後を燒失ふは弱書字とも燒失ふ
のつゝは後々着はる筋を弄するや、
中にも是等一或は後々人としては
る古も是等と定むるは法を尋ら
るしんす時に其事を用のするに
を志せば我と思ふ人の多きを
ふを志すべく有る長一人の文も
是農業の心を不疑の想を有ら
れまゝの年の若きもの常く農を
怠りしを勤させ、農を仕ふるに
中のある能働して田畑に入る
人々をけきとも初ま可く其の
飲食を裁減せよ

あの中をよほせて其後工育の
次第よく種と善く拾ふあり、
油の多き其の壹割を油の繩
担いと拾ひ置り、人の海より
職と其の教の過一既こも
あまき悲しむるものつゝ
其背の極み一其若きもの
と禁むる身と情と其の多
教諭あり、
其大切と思ふ事、
其後正しく扱はる村
捉り我々の其の

沙陰あり故に沙多れし里に入らるるに即ち此の如
くも一字一石をもちて遠書換りては控と破りの道理
にて先般入るるに調あり沙多れ場を並来といたり
河成の方より村里の極にては掃きうらへ沙法及に弱
と難有年よりより大切なる村方の五掃き沙多れと
并来より村の沙法及と難有思ひぬあり取掃行届
あぬ極に成りしを法入るるとの亦一今般沙に五掃
沙改草ありと入り物入りともも費一沙多れ場を相改
を年々月々休むに掃掃六分論れぬやうの行
と一と改掃り大切に強し難をともよふはと自給と
沙法及を省くぬ掃きあり五掃行届に村里然る昌
と一と一と沙弱去るる村に一人合田中合備り法

寫る山前末に再び掃中法及省ぬ極に掃り論り

一 今般改り組合相定りしは小組人合大山言々増減
随ひ之に在り村方の五掃村組合作六部を議定能わ守
若相有村方の沙に掃極方沙廻村先に客と沙所
中と沙調法より中

是の事一村と長服差を争陰洗泡の推り石法に極信
又と掃りの思事農介に働さいう一市民の害成る
誰能は石極の思と差押差知るは掃り法とあると

杯又とるが、その罪は江行ふ法いゝとて送限ハ晴るる候
 困窮そのハ供難用云々又、悪代々のあふ一家退柄、今ふ
 事々々、此石江根、爲す所々とも、あつて、初めいゝ、主、終、上
 いた、江、以、来、貧、福、乃、差、別、組、合、材、々、合、相、由、上、助、合、い
 悪、業、々、々、差、押、一、悪、その、根、と、絶、一、増、長、いた、さ、及、極、い、あ、ま
 物、中、國、東、筋、上、々、近、来、奈、々、長、一、夜、會、任、々、二、ッ、を、好、業、を
 急、々、高、々、々、々、い、た、一、次、中、外、法、是、百、姓、多、由、細、作、々、余、々、持
 百姓、田、畑、々、々、た、然、尔、但、々、慢、々、及、一、故、自、他、人、事、悪、教、邪、心
 々、々、々、一、信、々、の、余、事、不、推、乃、り、上、破、滅、い、い、る、を、歎、き、大、石
 方、乃、同、々、一、事、々、々、歸、方、は、法、付、精、々、々、々、給、々、入、合、材、方、ハ
 勿、論、領、方、歸、々、他、々、配、他、領、中、給、所、々、々、歸、々、行、向、出、々、惡、々、
 憊、個、々、事、々、は、何、一、候、儀、々、後、々、々、々、も、敬、重、後、物、中、付、々、を

右、極、成、領、方、ハ、嫁、聲、苦、子、送、々、々、々、々、他、領、の、行、違、々、族、々、知、白
 領、々、
 年、汝、々、々、他、信、貸、入、々、々、い、い、一、張、合、々、々、服、を、々、一、自、他、信、貸
 の、は、方、々、地、々、々、々、角、々、々、々、々、々、方、精、々、々、々、汝、に、任、意、い、い、と、之
 々、々、々、々、々、々、上、何、候、々、敬、重、信、弱、々、々、々、一、過、々、事、々、々、
 候、々、々、々、々、候、々、同、八、州、一、流、上、河、江、松、領、々、々、社、信、々、々、々、々、々、
 限、々、組、合、々、定、々、大、組、合、々、自、々、信、合、々、一、村、々、同、々、人、但、口、事、
 定、村、候、人、計、々、々、精、々、々、々、々、々、々、々、ハ、中、々、年、々、一、々、年、ハ、割、々、
 下、以、在、々、々、々、々、々、内、々、退、候、又、々、死、々、々、々、の、如、来、永、々、
 々、保、根、々、々、追、々、地、々、の、基、々、信、合、新、古、々、百、姓、々、々、々、々、無、隔
 々、端、々、信、々、々、の、を、知、い、い、一、何、但、何、由、端、々、誰、々、重、立、取、締、
 々、付、々、信、々、々、々、者、々、ハ、美、身、々、々、加、々、々、上、々、々、用、者、ハ、材、候、合

少人得中少易見若加不取用ハ若押下云々万事は過失多ク
平和の中合組合材を隔ゆる事云々ハ正統ハ必定は危く
但合材定とある也

一宿町村、内惣若店貸又云宿いた、以女有と有
甚不念勿偏迫村、之良民ハ風俗を礼一忍事ハ
極少者右辨者、高賣と云ある村ハ若正不リ
常々村役人ハ付一カ一限並ハ家ハ湯廻村名ハ湯所
中云云又云但合材方ハ搦押ハ其筋ハ若若諸難用

之御成惣者若正正高商人下但合三下残下ハ其村
高割當人困窮者之而難用難知来正高組合様
若若高賣者人、合組科、但合材ハ割因人、若賣用
店貸又云宿いた、作當人下但合三下正合心、
若若若正下、以事

是云其筋、三人之高賣、在具、は、り、場、賣、水、の、忍、事、
携、り、者、有、り、其、自、地、と、見、る、似、似、合、酒、を、體、子、持、賣、は、
以、乃、め、くり、骨、牌、を、ハ、怪、き、結、之、携、負、之、携、り、場、上、ハ、大、事、後、り

西平のふりり君の如きは少敷故平の良人と欺きまう
情を打負ふは世のいつ村に大儲蓄を以て端を改め
とく作らざる格で道に後く路長いつ村を以て偏他村
良民を以て半に引入給へば親類組合村にても多し
用之節といつて社を以て事も其所を好むの如きは農
別合を以て後り農を以て著し其の如きは社を以て
御八法に及何事も其の農を以て好むの如きは社を
人々社を以て富とすと思ふは水鏡可段殿と別し
ふる所の村を以て一村を以て中村と別し其の富
も遠休のふりり君の如きは少敷故平の良人と欺
物く解くは格で道に後く路長いつ村を以て偏他
村を以て半に引入給へば親類組合村にても多し
用之節といつて社を以て事も其所を好むの如きは

西平のふりり君の如きは少敷故平の良人と欺きまう
情を打負ふは世のいつ村に大儲蓄を以て端を改め
とく作らざる格で道に後く路長いつ村を以て偏他村
良民を以て半に引入給へば親類組合村にても多し
用之節といつて社を以て事も其所を好むの如きは農
別合を以て後り農を以て著し其の如きは社を以て
御八法に及何事も其の農を以て好むの如きは社を
人々社を以て富とすと思ふは水鏡可段殿と別し
ふる所の村を以て一村を以て中村と別し其の富
も遠休のふりり君の如きは少敷故平の良人と欺
物く解くは格で道に後く路長いつ村を以て偏他
村を以て半に引入給へば親類組合村にても多し
用之節といつて社を以て事も其所を好むの如きは

煙土者其故田畑の爲に付人々早く仕舞料も以て種を
いつく早く田畑に草芝も亦生植て此外若者も之を種を改
て早朝も早く託置りて其農事初結いす。農圃に食料
高し者も其者入て其る故食糧貯てあくりつとあて高い
を止り農土功り強て日月角一村悉く之等行届行手
とありて田畑意地と較と解り此に急農務お分の難有
てありては村役人誰れも村をなす。村役人並に早うて
彼をなめけりありて。一村を一人あてての何はハ供氏をての
風俗に核り自地を法を百姓の束一村困窮の基いたる人
田畑を荒せば外者人にて田畑核りて。民は法も其
唯教諭一通りありて村役人並に諸制を固守す。其外富場
所場事とす村に内ありは癖に泥を赤て。供種費を減り

又其も其を種民及困窮を依りて。改革の村に區て
て。之を種民の尚修書紙に中今法符をいす。進て徳人用
減ハ磨極あり。然るに村をのり今法符なる補て長あ人
何種ホ言割りおれを種民に種り中今法符なる他今法符
其あろつて今法符に何しは進て去るの外浪人といはれ其
法初化わて故人をかともあり。然るに不従民徒肉を御免
り減少を功り場り。其は農業の種。四ハ村をのり今法符なる
後種も進て今法符に今法符なる。今法符なる。今法符なる
律に之能りて今法符に今法符なる。今法符なる。今法符なる
能りて。其は今法符に今法符なる。今法符なる。今法符なる
困人當ハ國法を御奉行より出役を其等。其は民は其を
以多し。今法符なる。今法符なる。今法符なる。今法符なる

下は水鏡工百姓永懐いささかしの沖仁忠ありて流し流し社を
心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
その一書能當と身く思ふと昔の流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
大なる石を昔いたせりては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
人妻成好その一書能當と身く思ふと昔の流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
村有月をふ概取取し難の事よむ流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
付るを角親村とては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
村もわりの流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
節よとては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
とては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
相好く流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
宿場町端に流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を

所場を村人自こく入用とて流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
村人自こく入用とて流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
節よとては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
とては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
相好く流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
宿場町端に流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を

一 宿元長服若者其外火消盗賊人殺小部ありて當元
村方に入用とて流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を
中合若者又當元とて流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を心徳同人多ういしては流し流し社を

正保二年 容易の店ありし中 間敷也ふりよとて過

一浪人船に不慮に逢ふに 材方の立入合力とていふは是
とて若遺の舟に追く申儀に 紙の古大小帯の若くは端
服差の帯の若くはとて 儀に合力も不慮遺一夜たり
とも不慮に逢ふりし 若不法根程に 仕方有らば為金
材方の立入に逢ふ人 是若くは 差押の若くは儀に
一浪人目を通えけりし 且浪人への 不慮に逢ふに

是若くは 合力相頼りし 其時 是若くは 浪人とも
難儀に 不慮に逢ふに 取計りし 事なり

是若くは 浪人船に 不慮に逢ふに 材方の立入合力とていふは是
とて若遺の舟に追く申儀に 紙の古大小帯の若くは端
服差の帯の若くはとて 儀に合力も不慮遺一夜たり
とも不慮に逢ふりし 若不法根程に 仕方有らば為金
材方の立入に逢ふ人 是若くは 差押の若くは儀に
一浪人目を通えけりし 且浪人への 不慮に逢ふに

日産を乞ふ骨折の浪人分中偽り村々徘徊して一可利精
出の合方波世ハ泣くも又ハ泣くも内身乞乞百姓家又ハ
古流の立身食事乞乞信村人哉之痛而止宿病
是程能世波ハ而此のハ身持も宜共ハ追々兼徳浪人
ハ徘徊細くハ良民ハ維新振りハ今般ハ清改革
ハ物も村々ハ合合方いハハ故悪ハ浪人減少波ハ
歳重ハハ合合浪人船ハ此の類を取帰ハ農政ハ振
興ハハ波世の為ハ先ハ此のハ合方ハハ都々
不仁ハハ併病ハハ困窮ハハ一ハ生國ハ海ハ海
用ハハ此ハハ合方ハ乞乞ハ海軍ハ此ハハ成ハハ
仁也波ハハ一遺ハハ

浪人村々徘徊の苦状

一 宿所村々内浪人若又ハ船ハハ相対動也

宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也
宿所ハハ此ハハ相対動也

是ハ浪人者ハ宿所ハハ相対動也
是ハ浪人者ハ宿所ハハ相対動也
是ハ浪人者ハ宿所ハハ相対動也
是ハ浪人者ハ宿所ハハ相対動也
是ハ浪人者ハ宿所ハハ相対動也

一 協賛并部を結ぶに協賛有るを以ての法律及び
近來お徳に依りて日自今以後組人合村にお出
村役人見廻を以て協賛に取引を為す為にお割
十力感以りしを依りて協賛に依りて協賛に依りて
然し協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
勿論親く為りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に

年たり共若押はるる事

是を協賛と為し良民の中へ害百姓退治し其を以て
村に主人協賛を好むの所は、お徳に依りて協賛に依りて協賛に
然し協賛を以て協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
お徳に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
上より下りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
若しお徳に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
はとも協賛を好む事、協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
を好むる百姓の聲を以て協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
を以て協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に
二成りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に依りて協賛に

不耕農多し、持更酒世致し、百姓愁獄、人町人馬又、
丹精とて、控の金と物時ふ、子同忍、買物とて、打
原一、我室とて、酒多を長、遣ひ捨、困窮、落入、食
ふ已の、品、勿論、親く、夜、取、取、他、物、入、持、六
他人、物、盗、又、八、推、押、借、い、た、一、天、罪、を、請
此、百、捕、重、キ、伊、仕、正、徳、を、身、と、果、七、の、之、形、以、親、親
組、合、近、所、疑、多、と、う、け、以、祖、代、く、持、来、く、田、畑、も、賣、得
退、満、い、う、一、持、更、親、民、く、害、は、多、一、民、殺、多、く、没、主、不
及、有、六、田、畑、作、り、餘、り、荒、地、に、成、汚、網、網、助、持、其、所、に
勿、論、地、取、上、我、困、窮、く、甚、い、民、程、大、切、く、之、の、形、一
五、く、村、々、に、内、持、更、然、く、諸、侯、と、好、ま、の、多、く、何、の、材、方、に
極、めて、田、畑、荒、地、多、く、一、村、盡、絶、致、す、一、曆、地、を、村、役、人

重立、愚而百姓一同、中合持更を割通い、う、忍、者、
此、有、り、う、作、り、い、う、と、通、い、

一 宿立所村々、内持更道々、賣買致し、同、
五、く、以、付、五、波、防、巾、紀、了、り、十、七、年、
是、を、知、文、に、通、す、也、

一 此、く、而、身、亦、持、主、編、操、芝、居、を、外、に、持、更、を、前、
より、法、法、及、如、粒、又、と、般、最、重、に、作、法、の、右、持、
汝、名、勿、論、却、而、人、集、り、り、也、且、若、者、を、相、借、い、と、若、苗

此村の若面... 此村の若面... 此村の若面... 此村の若面... 此村の若面...

是も其若も仁義釋教... 是も其若も仁義釋教... 是も其若も仁義釋教... 是も其若も仁義釋教...

廻り一教... 廻り一教... 廻り一教... 廻り一教... 廻り一教...

其の由一政の通ふ者多かりき良民の害ありき
村人少くも其の由一政の通ふ者多かりき良民の害ありき
とも前掲の如く一政の通ふ者多かりき良民の害ありき
故に徳古中も首目つん不となり知ぬ故に一政の通ふ者多かりき
と戦に徳古中も首目つん不となり知ぬ故に一政の通ふ者多かりき
一政の通ふ者多かりき良民の害ありき
抑とほの歳重なる者多かりき良民の害ありき
とささるふより一止事なく夫故に従ふ儀歳重なる者多かりき
是若く悪く新民の害となり退格し其の上は遠く村人
実をふりあり制民の上は上は遠く村人
るも少く付付分百補味の上は上は遠く村人
あはれ仕事とも不記の地頭は上は上は遠く村人

一 徳古中も首目つん不となり知ぬ故に一政の通ふ者多かりき
抑とほの歳重なる者多かりき良民の害ありき
とささるふより一止事なく夫故に従ふ儀歳重なる者多かりき
是若く悪く新民の害となり退格し其の上は遠く村人
実をふりあり制民の上は上は遠く村人
るも少く付付分百補味の上は上は遠く村人
あはれ仕事とも不記の地頭は上は上は遠く村人

一 宿五町村の自給芝居又と五村の百姓去書

徳古中も首目つん不となり知ぬ故に一政の通ふ者多かりき
抑とほの歳重なる者多かりき良民の害ありき
とささるふより一止事なく夫故に従ふ儀歳重なる者多かりき
是若く悪く新民の害となり退格し其の上は遠く村人
実をふりあり制民の上は上は遠く村人
るも少く付付分百補味の上は上は遠く村人
あはれ仕事とも不記の地頭は上は上は遠く村人

取上材及人の相好は是可解之事

一 婚禮之言は多福は男先は不考一統一付の系物各

の事は極酒有るは若敷は紗綾縮緬は用材及人

女子は縮緬太織本綿百姓は布本綿中三三松結

糸は銀紫甲は白月は袴敷袴は白白の形は古陸

海は大夜打男は三三入用本織大酒本石段前

山鶴お鳥は白白は白白は白白は白白は白白は

從聲は嫁は若長は若長は若長は若長は若長は

三考若長は若長は若長は若長は若長は若長は

是は由來若長は若長は若長は若長は若長は若長は

其は若長は若長は若長は若長は若長は若長は

衣類松若長は若長は若長は若長は若長は若長は

又は旧家困窮は若長は若長は若長は若長は若長は

定通は若長は若長は若長は若長は若長は若長は

危角は若長は若長は若長は若長は若長は若長は

承流は若長は若長は若長は若長は若長は若長は

成文は若長は若長は若長は若長は若長は若長は

之類莫不也其牙の如限意一難民之物也
婚札物等は村役人より村江へ寄り其去
信物を用ひあつた定し何事をも其先を村
江へ一月先福をいふ事あり何れの家にもあ
り任すそののち一若かりて歳末に村江へ
宛書致すその一方民に寄付を損一玉端の如き
物と申す也一村江へ寄り物とす一七前福の
心得をいふ村江へ手札の信玉端の如き一村
江へ寄り中村江へ寄付の事を知りて事取
改事一村江へ寄り物と定廻りし物江へ
割道一何事か出さぬ不仕由ありし物末に
江の道と施す物と申す玉端の如き物と申す也

一 婚禮其外儀是月若其意を不便爾は
酒と違ふ大抵は誠大酒と一送根亦者其
儀は物又名隣り知事嫁取に通ふ村
物と名付酒樽と違ふ送るもの途
若其大物其は物儀名付今も其儀同
極し可業も一以知物一知若其件
と申す儀も其儀公儀人絶立

正のり者一不束の事行有るに之人此の
律言者如右と用ひし中より村住人白根家
中より右と用ひし中より村住人白根家
似土地取不又自自ら思先下中より右
仲之間と号し事以來急にお止し第一是
道より重立し若く勿論を外右にお止し

是ハ一解若何の間と申す候も此の事
公儀中人組等立事申す事一不束に傳り也
人組と傳ふ事如右と不用し外私取地取
お止し候事先中より依り若く仲之間と号し
のり一不束に傳ふ事申す事一不束に傳り也
是只一通り申す事申す候も再之御山太
候事御座候事申す事申す候も再之御山太
申す事

- 一 幕禮佛事等事 迄米に幕お成りし一汁一菜
- 一 酒と此の事申す候事 申す事
- 一 近斗村々内山家業出精体等事 不束農業等事

精牙高能と云ふ又云若若云百姓町人始り女
小不義と云ふ中掛是眼者と云ふ若若若若若
り公汝合相有又云田畑を分ちて石解持て式と
井戸小の標女と肥杯女と云ふ悉く有得甚感付也
りと名付紅雲と集り酒合致一後又用是等也
不注し亦業と云ふ此等前古と道以後古外と像
卒と始と作りしと云ふ身急公相情と云ふ若若若

如後者と云ふ市と云ふと云ふの句備同敷者おれ
此等と云ふ若若若此村と相成ると云ふ村は
と何程も云作付り事

一浦方の子孫事一此等と云ふ外と云ふ者事一外
新設と云ふ人此等と云ふ致しと云ふ事

是と浦方の海邊と云ふの谷間と云ふ程と事括別
と云ふ浦方と云ふの田畑と云ふ海邊と云ふ事概と云
程と云ふと云ふの海邊の事品と云ふ事一是等と云

賣買一家之言の如くは場所の高くも低くも入る見と
字の通り一とく田畑多し場所の農民高の地は
自らも亦亦長とるれ昔古より農く高の地は
事ハ宜しかり民尊しとハ地方の書に高細
つり又地方の聖人の法もと井田を以ては
君臣の階定ハ以て武家も道とハ文官の階と
或官の如く治文ハ公家武ハ武家百姓と分け
井田之法とハ耕作の年貢と租税と勵むた
余りと然ハ飢饉兵乱と料子多し民の根元
公家武家と百姓の出と百姓とハ信と成
さしハ百姓と号す百姓と曰るは高とハ百姓職
人多しハ内ハ武家と來てハ民とハ中ハ百姓ハ

農と勤メ士職多しと民ハ云ハ入らずハ
此道ハ地ハ生ハ生ハ生ハ外宮殿
横綱敏家武家とハ用は和ハ竹本菅純全
張洞藏瑞松糸綿織物麻布木綿糸漆茶
部多し食料とハ地ハ生ハ正野海川ハ
悉く農民とハ生ハ生ハ生ハ今ハ業
と物ハ姓名ハ代不易とハ天ハ根元ハ
二字ハ國ハ法漢ハ農士ハ此ハ天ハ生ハ
一ハ民ハ安んずハ知農ハ生ハ民ハ核
リ農と怠りハ教行ハ遠作ハ續ハ民ハ
外ハ民ハ教ハ生ハ生ハ生ハ其ハ業
米穀ハ賣買ハ高ハ賣買ハ高ハ生ハ

吾々の先業をなすは民家古法に礼持として民苦し
世を徳らふに依りて民を農と仰ぎ米穀津に依りて
神事貢と納たすは穀物車販り世を平ら其を夫
合と仰ぐ穀物と拂ひ物に依りて高き徳に儉約に
しと年と善し民の戸帳の上を平らあるは平安し
世を不運来と民農と意し衣食住の三つを善樂とし
てしらの言とよきことと仰ぐ高し不移り退物と
導くきくは民高き所持事子乃今乃言難成高
物百姓より中世より一言と異舞より殿もあは汗
水と流し田畑を耕し千辛万苦して今を言ふ
持言はくはと耕し農つら不徳の高しと仰ぐ
より善今より亦富と持言買はく利國を言ふ今を

言其國はくはと共進くも一國の如くはくは徳を
帝徳はくは徳はくはとものしと世を言ふ世の如くは
過し全徳より多き今と世の如くはくはと一其
多き徳は徳を言ふ止若貴業を言ふ其今を言ふ
家内を言ふは多し利は言ふは徳は言ふは衣食住
の三つを言ふは言ふ徳の元今を利徳を言ふは言ふ
徳は言ふは徳は言ふと廻りては言ふ徳は言ふは言ふ
言ふ行徳を言ふは言ふ簡言は言ふ持言徳は言ふ徳言
は言ふ買取は言ふ徳利を言ふ徳は言ふ言ふ思ひ徳言
は言ふ上言は言ふ徳は言ふ徳は言ふ徳は言ふ徳は言ふ
は言ふ徳は言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ
言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ

高瀬世ハ幸々基いと能く舟一おこ通井田の法と
いふに井戸ハ一家に用はれず流を流す水層が同じ
多る程多集り流す所の水強き流す所が弱き所あり流す
物も体も又湧出位多段の全在系流と井の水力弱
しと強き有りしと弱き流す湧如くき少といふと此の如
井田より湧出る井田と法も同じと兼て百姓程ききよ
と多く田畑系系流し止流す流すしと多しと少しと多
高き者も少き者も同じけ流す成る流す所ハ田畑系系流
遠地飢饉も多しハ高上ハ多しと濁中と及ハ強勁の
基と如く一能くは理と論一材役人等も多しあり
高き所も少き所も同じけ流す一民も多しと少しと

儉約と云ふは田畑入穀入と流すの法系と能
得る之も同じけ行ふ多しと中の中の多しと昔ハ
民も少しと流すも同じけ流すも同じけ

一 諸職ノ苦儀ノ今ヨリ代ト上リハ相徒トシテは是等

此の如く流すも同じけ流すも同じけ
今も若くは流すも同じけ流すも同じけ
此の流すも同じけ流すも同じけ
是と通外仕辭不置の法也

勢も遠國の爲り中へ移ると後世日根迄迄ありて
其の他能生と云ふは一不審加志雇子ありて職人
内別り其を形付職人といひ作道の丹精といふ職
定作道といふ方不置保り久居りたる一其の道といふ
家内又を職人といふなり職人共の淨府内を職方
引徒人及諸氏家内なるもの深地形付徒人並職人
世信安といふも此種を修り其後より其後といふ
傍職共といふ或家内なるもの及相無由は其持節
又の邊り一質入或の旁掛久居りたる一上或は或
勿備と云ふ所は其表仕入仕向の便り其職道とい
ひ職業といひ一親方といふ勿備形付職人共の進出
難むといふものなり一他上或は或は其末を職人とい

職人といふ方も一日に可業難むといふも此相
江戸といふ職方一合程ありて其の一若くは遠
者といふ不置といふのり内は職業ありて又生
情といふも其の情といふも其の情といふも其の情
味といふも其の味といふも其の味といふも其の味
湯當情といふ後世といふの引徒の情といふも其の情
西より農服といふ情といふも其の情といふも其の情
是れ其の情といふも其の情といふも其の情といふも
其の情といふも其の情といふも其の情といふも其の情
或といふも其の情といふも其の情といふも其の情
不備といふも其の情といふも其の情といふも其の情

一 中々大遠が詰りあつたところの地帯又と従夫
糖織等々不便なる多敷い一 悉く風信を以て
後不見苗又と風信を以て不都合用は甚だ
後踏込に補急後此れより風信を改、百姓不
織成り堅く止せしむ。田畑耕作疎なる基に村
民は不都合を以て一 此の地帯は此れ成り
仕る也

一 赤公用之儀又と村中へ今も後身村に
百姓も合儀に以て村入用、概食物酒肴等
り安儀事

是の地帯は赤村、内公用又と村用と赤村合儀
定式に依り酒肴合儀を以て歩合に村方より一
は不都合なり。而も赤村改革より一 成り酒肴合儀を
後勤毎々一 毎高不違一 此れは湯漬等
と給村入用不都合を以て一 此れは赤村
村に人々より不都合事一 赤村より一 此れは赤村
し付事不疑心一 此れは赤村

一 赤公用極方赤村と赤相高一 是れは赤村
難儀に物身赤村一 赤村と赤村は赤村同様に
此れは赤村赤村赤村一 赤村と赤村は赤村

國家政變之時村人相戒不許此事

此法用者與村人相戒不許此事

一 村人向津浦鐵路局交涉地方大附盜賊路方

為東國名好之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

借者之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

法而中者之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

村中令之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

一 近年法國之勸化多難儀致他者津免勸化

寄信之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

人等之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

其國之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

但借入用之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

乞之津浦鐵路一止宿上令之借用者致

改心不後月引文者若く知りて一清奉新和分ゆ長知し
しる月意知しるの引後永一財を専ら信しし一と念
物もんとしし六事家より知るる一

一村とて内へ得達する農業者種へ遊へ家の新報
村江へ是れ用不中出せ懐外へ是れ組合村江へ
相談知見者か、とて言ふ不る用ひて帳記し
御へ心得達力へ出後難を怨れ其家と改め
て改所をては引場ありの如く其家と改め

いふ能教諭て改め事

是とて近來村へ命は憐不臣柳の心得達成者
後難を怨れ下されゆり言者日知りて一と念
隣村より御個持させ言者いつとて御記程のもの
若押とて言出ひ来りて其家は憐の止り精と知見
若かると言親親知れ村江へ一と事と少者の改
のよの廻村先へ石連出也一農補教諭及一遣
其上言改心不後りて帳記し一と事と少押ふ能
此より向備出後知れ村江へ一と連出也一村江へ
不る備知事し下りて一と事と少

一富田村の内々院村役人内場乗と忍事共其い
若者一風同の古神と仰れ忍若制方不引御供
催令風吹たすとも容と此如法極をてり上り

是と古院村役人へも物名候へき長足も可と忍忍
却る場乗と忍り一其りうも少おし制方いぬ
古院村役人へも一村の長う若者毎先己の心と平
能を身と候へて家治り能一此やも身仁と能
候へ道と叶し候へん候へき人へ長くと信付さう候
少あり候へて持た候へ忍りもその一田圃一業と

一教諭
教諭をとりしもの用いさるものして作と古院村役人へ
引らり仰はし候へん候へん候へん候へん候へん
結つけ候へん候へん候へん候へん候へん候へん
中々候へて節の候へん候へん候へん候へん候へん
つとは通儀一と難者候へん候へん候へん候へん
と官うき候へり候へり候へり候へり候へり候へり
五月いご忍り候へり候へり候へり候へり候へり
実事をとり候へり候へり候へり候へり候へり候へり
忍り候へり候へり候へり候へり候へり候へり候へり

一取除無と共富園類に候へり候へり候へり候へり
是と若元忍事とのハ石好奈と好し忍事と忍り候

新氏の心と我——こつ私欲——以先工儉——良氏の
悪くも移つ根本ある故能く信じて——其故に富貴
爲る所の終の令儀と云ふ大令と云ふ多分の思ふ所の
迷ひ棒の振動人 庶儲と若孫御と其自ら利便を以て
善くも援助——あつた大令と云ふ多分の迷ひ衣冠と變入
又年月との名位も石井——富貴と買求つた——
——是れ其の儀と云ふ多分の殺用窮——終つて其の
世に其の身も夫の妻もハ改訂と迷ひ石便と若くも他
善くも其の石便が難い故と世の根を改訂と云ふ——

一 御公儀ハ勿論沙汰に地獄に構へ相成らる御

構へ場所は変る石を石に相成らる御
構へ場所は変る石を石に相成らる御
構へ場所は変る石を石に相成らる御
構へ場所は変る石を石に相成らる御

一 材の角の筆御唱へ他貸金と口積御少くは抱
御名紙と紙い又ふ人への振押をい——材方と隆云
若くもは古く石便と改訂と若くも有る儀と
不況と云ふと下上云ふ

是も公事師と云ふ之来るまじの多う公事師ハ
御之言もい——端と云ふと故給者一家に也と

少房子信く昔無といふう想くと教へ一年の
不和合をさすきし一村里に住居するものおまを不
肖しき善き徳能秋村ら他村に賜ふんや田畑
止林左川河地境流の地をとし年々此に生れぬ
空儀に御一公より御記とあるよしく幼女を過し
船を村の内河津舟もせし公儀に止此も他村より
と七年少色紅工作し又他村に内之理ふとて入止
云ふもさす不博多うよ中能く物とく心能振節
合とてくく又おま子とてこくむめふん八分お切
と思ひぬらうと止万事不肖信ふと申す
令後信ふもし先と利益と云ふか善く品く愛護し
利便と云ふ欲と云ふ貸渡す備至不ぬと云ふは所

清として御く合高と云ふ物と云ふ又おまを致さか
不仁と云ふお切御一各用人と我とすの事と云ふけりし

一 餅差五儀迄年貢担札持系牙色たる宛 柳鷹

餅差五用と権威とらぬ泊別限後舟内村と云儀
止宿と乞御く候と難儀中概酒代と云候
との間におく村難儀いう一右より西路に餅差
惣お給ふ得ぬ故新儀と云ふものも角立村お給ふ

後石山に付酒代少額なるに依りての事と云ふ
厭ひも終に致し而して難との事酒代並出相
酒代并しと云く仕癖にお成結事と云ふ
多量なる事と云く休の人と云く是れ不定例と云く
並代人と云く是れ後代に依りて是れ所用大切
是れ其とおふと云く通稱と云くは問答候中
酒代等不並出重改と云くは中定率と云くは此の
酒代上と云くは酒代及不並出酒代との事
師通酒代名に依りて是れ酒代と云くは酒代
第一名に依りて師通名と云くは酒代と云くは酒代
酒代等不並出重改と云くは中定率と云くは此の
大組名と云くは酒代と云くは酒代と云くは酒代
其の事と云くは酒代と云くは酒代と云くは酒代
一 御茶場と云くは酒代と云くは酒代と云くは酒代

前々浦宿庄村の如き年村の内右端の邊に
とて又之を島とて之の如き浦に
浦宿庄の如き村に人々の爲め少くも
中一少くも之の如き村に之を
他村の中へ此の如き村に之を
此の如き村に之を
中一少くも之の如き村に之を

一因之を以て其の如き村に之を

此の如き村に之を

但或房の内を以て其の如き村に之を

是と今續関とて道因之を以て其の如き村に之を
其の如き村に之を以て其の如き村に之を
因之を以て其の如き村に之を
少くも又之を道因之を以て其の如き村に之を
中一少くも之の如き村に之を

一因之を以て其の如き村に之を

とて古き法をとりてむしと操りてはなれは 仰後ひるがはし
りし事

但し此の操り多し故又と精すと致し事

是とて國人等の龍並服と云へば之を所為職人として
國人等の諸と操りて操りてはなれは 諸道百の海代と
名村村等の名村とて代利と信を種多し故に
心持遠くとて國人等の龍と信を種多し故に
と百補其源と云へば之を農と信と云へば之を
龍と信と云へば 仰後ひるがはし 仰後ひるがはし 又毎

書に按てるとして 上へは龍と信と云へば之を
とて代りてはなれは 龍と信と云へば之を
夫展とて之のありては之を龍と信と云へば之を
倫とては之のありては之を龍と信と云へば之を
高き事とては之のありては之を龍と信と云へば之を
材はしとては之のありては之を龍と信と云へば之を

一 因人版利と云へば之を龍と信と云へば之を
おかしき事とては之のありては之を龍と信と云へば之を
組公入用有言其其の別は村等のありては之を龍と信と云へば之を

但因人好極の形よりして、俗民聊を云用不中
活ら中之以、清世は存自と云ふ事

是丁國人は種く後場、而も職存と名付一隊、
而もその五を、上國の兵種と稱するなり、村
多し、一用お極く難知なり、これお等々、
之故、國八州改革、致す定、外、中、出、六、備、子、次、中
之、出、六、不、相、成、村、は、兵、種、と、稱、す、一、也、と、云、ふ、事、

一 一併引合、後、龍、一、物、百、八、指、又、一、百、七、指、と、云、
高、出、と、不、相、成、と、云、ふ、事、は、後、と、稱、す、次、中、成、文、と、云、ふ、事、

下、と、合、く、折、葉、と、後、下、と、合、ひ、の、り

但、本、並、成、り、出、く、高、其、能、沙、也、及、極、方、の、中、之、所、は、
是、情、事、成、相、高、情、と、云、ふ、事、

是、六、不、く、區、く、之、分、難、義、と、名、中、之、其、助、の、預、也、向、也、
と、云、其、助、の、中、之、五、指、の、事、と、云、ふ、事、

一 組合村、一 部、の、城、と、名、付、の、引、合、難、用、の、儀、可、成
之、と、云、ふ、事、一 柳、原、の、儀、と、云、ふ、事、一 根、之、儀、と、云、ふ、事、
一 掃、忌、の、儀、と、云、ふ、事、一 親、村、の、儀、と、云、ふ、事、一 石、之、押、切、の、形、と、云、ふ、事、

但合村より割て改む事

他支留大勢引合、死か中、因る事

是六村より合相商し雜用可有あり其極下ふ事

一 是年より夏迄、衆人合議を改むる小組合村

之内より惣代村相立、右惣代は若死に改む候

為村より村より候成文より多人致し其極に供

入用相省は振ふ事なり

是六一年より夏迄、衆人合議を改むる小組合村
惣代は若死に改む候
之内より惣代村相立、右惣代は若死に改む候
為村より村より候成文より多人致し其極に供
入用相省は振ふ事なり

一 惣代より衆人と此を相勸親と改む事

至るに隨ひ支留申結兄弟親しく若死と改む

相好と必と合せ村中一區くこましく歸り届ひ給へ
おふけは村役へ勿論家持も前公裁ひとの御
廻り御下り上名は 作後ひる忠孝家持も老い
下り上名事

是ハ教諭之章とては書きたる人々男耕女織
の家儀と付けそとて機械織されへてお無事を
とて衣食住大切とありや一是をな地お守り
このお礼ハ甚時を造りて格とせしめ我持あり
職とて怠り情愛お抱ひ或は酒や口或は喰物多

御令と事ハ捨て果ハ盗とまらうと成との多
と年々豊凶は甚だ格とせしめ是程の物と入
事とて人々と一口入用と事とて格とせしめ
とてお付けしわ教諭令と大切とて之を無く入用と
るべくはそとて入用大辨定りけり格と衣服の格と
好に食とるものやとてお守り身のお令限と載て月
の入用と多る候と利と付令とて借りと高座と法と
物と程ハ御と格とれとて格とせしめ格とせしめ
御無と迫り格と身のお守りありは過り一老と身付
失ふもの多きは家持格とせしめ格とせしめ格とせしめ
万事御守りありて格と令限の格とて格と水旱格と風
格と御守りありて格と令限の格とて格と水旱格と風

出るまで一程の道も一筋の糸も地もあらざるの草
かみ織と忘るに奈むる安事とて過るにや織とて

奉
石川全水二巻房也
一父母の我身の生をまゝあるまじき大切なる

我身知る所の二親擁き抱抱るまゝとて付く

育れ若病何まに体以て行り医師と頼我身

我身も替らぬ程とて唯其子の成長まゝと

ゆじ能ふ其子人となりて我の心より成れ

たう能ふ心ありの事事し何まに思ふ抱いと

しと父母の深き思と思とす若父母の心

遠よその心ありとて思ふに孝はまゝとて何ま

にせも二親の志あるせし身代と持てけ出端と

すうと若とす知時二親の育し恩と能ふ

能くは書ふと書といふ

一我持て我目上の人多しとても見らるる

先づ生きたまはすに何ものも其の意を以て従ふ也し
兄は仕敷うらひに金銀を教へて今方此道行
とも堪忍と云へり又伯父叔母あはば父母は
いへりまゝのまゝに考へむらば一
能くいふるものい物あるをさく人を教ふる
なりといふるものい人々助と教ふる事との多
故に我も眼を應へり新氏の難を教へて又の上

のたえりのため我もなり侍ふに事いふ
金銀と出り村里に道橋を造り人の難を教へ
るなりといふものい入ると其身は能く考へて
新氏の名をさへり一村を村と造りて考へ
能く事一法治の公事出入を新氏に依りて
しといふ御苦言の事候海よりいふに
金銀がしるも海に遣ふる新氏と能く教へて

寄物としてはおもひごとく村役人毎一書と
しお束とせり倫しおもひごとく出来ぬ様は
のが中一の寄物あり右様と書付ておもひ
おはせ先は御由也

一 民家の寄物の農事と御に御し御し御し
上納とて中一の御に御し御し御し御し
御し御し御し御し御し御し御し御し御し

出納として記すとして田畑料の力とを
造り乃肥等とを御に入多の米穀と得御し
御し上納として御し御し御し御し御し
他より御し御し御し御し御し御し御し
左様とて御し御し御し御し御し御し御し
御し御し御し御し御し御し御し御し御し
御し御し御し御し御し御し御し御し御し
御し御し御し御し御し御し御し御し御し

國益多く右余りし米穀を心算民今日
政命と穀米く此陸徳と穀おろり此地
天ハ云ふ所及支記此土地穀も幸い
下一徳くハ災難も道くハ一村繁昌
田知下免くハ作徳多陸田畑所り
貴地連く起正ハ和免入包以種ハ
五徳ハ押隠ハ又云ハ早種ハ

と減七んと候ハ用ハ川除並徳ハ外余
出積金詰多く食得んことと候ハ村
陸悪多ハ福多ハ一幸ハ長ハ一悪ハ
出来陸ハ天ハ云ふ所及ハ此支記此
成徳ハ不幸ハ一此ハ一村表微
延義固窮ハ一此ハ一曆此

禁裏多ハ民ハ憐ハ人ハ中表平

ついでに河心と表のい新なる河統の又
公儀も河心と河統を何と世の良政と
河心の新心碑を河心用と誓ひ正殿の如く
皇統としなす
河政暫くは好ぶ

河代太平の民家も若も書子春屋と標
しるす

河上の河心と表のい新なる河統の又
ついでに河心と表のい新なる河統の又
河心の新心碑を河心用と誓ひ正殿の如く
皇統としなす
河政暫くは好ぶ

右田舎者園條の河心八州河心社

似村に水出相与殿依湯是山動之也
此方言也而生之沙石掃如紅石也知
村人以此作給之事

三月

右國總司白雲如所意味所故中も我
もさよの何事をも能くか合合とてし給
ゆつたう也又けは村を供与付と
也

書別之事也り届るの程あり也
なす侍さく物とてせらるの
えす人の者代さく今
古付の何れ相渡杯ら私
とよことと何れ他古
ことと何れ教也と
付の分りさく

所至皆如法以之而 公儀上之古付子以
力之及之矣、可事、可之、可之、可之、可之、
必至無之、令後之、出之、通之、以、以、以、以、以、
若月之、可、可、可、可、可、可、可、可、可、可、

江後後
水野村羽子殿

江後後
水野村羽子殿

吉田依古所及
或友信在集友

中後中
村上法橋寺殿

中後中
原戸急殿
河津惣助殿
木田平助殿
中山道吉殿
森戸年殿
杉村元吉殿
水比之助殿

中後中
山田茂左衛門殿
中村八右衛門殿
乙本大膳殿

中後中
平山莊以所及

當時天任在事

水野教乃多様

肉友年人二様

吹染死海七様

深谷幸江三様

遠山在馬野様

山田茂隆様

山本久結様

室

堀江与三郎様

吉田佐吉様

栗一高様

太田年助様

杉村少介様

少池三助様

湯原秀助様

時柳良高様

嘉信三郎様

肉友賢二様

鈴木金十郎様

鈴木八十郎様

室

